

認定kangoshiニュース 第16号

2023年9月4日発行



心不全患者のACP

ACPという言葉を知っていますか？アドバンス・ケア・プランニングのことで、患者さんやご家族の価値観を理解し、これからの人生の計画も含めた治療・ケアに関する話し合いのプロセスのことを言います。患者さんやご家族が望んだ最期を送れるか、望んだ看取りができるかどうかは事前の意思決定に大きく左右されます。DNARは「心臓マッサージはしますか？」「人工呼吸器はつけますか？」など、治療を選択するイメージですが、ACPでは患者さんの価値観を家族や大切な人、医療者と共有して、もしもの時に備えます。どのような信念をもって生きているのか、どのような最期を迎えたいのか、自分が選択をできなくなったときは誰に代弁してもらいたいか、そしてその理由となる価値観や経験などを何度も継続して話し合って共有していきます。ACPのゴールは何かを決めることではなく、「話し合う事」にあります。

ここで心不全の話になりますが、心不全の終末期は、がんと違って、末期であっても治療の選択肢があり、それによって回復する可能性があること、月単位、週単位の予後予測が困難であることが特徴です。また、入院をしてよくなった経験を繰り返すことで、患者さんもご家族も、「またよくなるだろう」という気持ちがあり死を身近に考えられていないことが多いです。患者さんが最期を迎えるときに、患者さんの価値観にそった最期を迎えられるよう、そしてご家族が後悔しない看取りができるよう 普段から話し合い、価値観を共有し、それを記録に残すことが大切です。

ACPは病気になってからではなく、健康な今だからこそ是非考えてみて下さい。

もし、自分がどうやって生きていきたいか、どういう最期を迎えたいか一度考えてみたいという方は冊子がありますので、木村までご連絡ください。

慢性心不全看護認定看護師 木村美海 PHS:8000

術前看護外来

昨年7月に術前看護外来を開設して1年が経ちました。

術前看護外来の対象を「外科桑原医師と小川医師の外来患者で腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術を受ける方」と限定していますが、現在まで32名の方が外来を受診しています。受診対象者は男性が7割、女性が3割、平均年齢は71.7歳、術前看護外来～入院まで平均14日。外来では入退院支援や栄養指導、歯科連携も行っています。術後の禁煙外来受診は2名です。



患者アンケート結果（一部抜粋）

- ① 入院までの間の過ごし方
 - ・「余裕が持てた」
 - ・「持ち物の準備ができた」
 - ・「パンフレットを読み返す時間があった」
- ② 看護外来受診をした感想
 - ・「窓口がしっかりしている」
 - ・「何でも聞くことができ安心した」
 - ・「歯科受診をして本当に良かった」

病棟看護師アンケート結果（一部抜粋）

- ① 病棟での業務量
 - ・「大いに軽減した」12%、「多少業務が軽減した」63%理由：入院物品が揃っている、患者DBの入力を予め患者支援室が行ってくれているため
- ② 看護外来を受診した患者との違い
 - ・「呼吸機能訓練を意識的に進んで行っていた」
 - ・「手術やその後の経過の受け容れが良かった」
 - ・「患者からそれ聞いた事があると返答があった」
 - ・「手術のイメージがついていると感じた」

その他の感想

- ・病棟栄養士より「術後の食事についてイメージができています」

最近手術室では術前看護外来を実施した患者さんの症例紹介を「症例カンファレンス」に変更しました！外来看護師は手術室に術前看護外来の予約が入ったことを連絡くれ、術前看護外来の情報を元に病棟看護師が看護実践している記録があり、それぞれの部署で最大の力を発揮して周術期看護をしていると感じています。今後も徐々に外来枠を拡大できるよう検討中ですので、また続編をお知らせします！

手術看護認定看護師 高谷 愛

オムツの当て方を見直しましょう！！

褥瘡対策委員会では、オムツケアの見直しとオムツ交換間隔の延長に取り組んでおります。一晩中安心さらさらパッドを使用し、夜間のオムツ交換の間隔を延長することで、患者さんの安眠の確保と医療スタッフの業務改善につながることを期待できます。

基本は正しいオムツの装着です。部署の褥瘡リンクナースが研修を行っています。この機会にご自身のオムツケアを見直してみましょう！！



オムツはバッテン
どめですよ！

皮膚・排泄ケア特定認定看護師 能登千恵